

小麦の基本的な施肥設計

窒素が分解しやすい範囲と小麦が生育しやすい環境とやや似かよっています。

pH5以下ですと発芽しても消えていくほどです。pHが低いと窒素を与えても分解しない小麦の習性を知ればヨーロッパの国々の15俵も可能と考えています。

pHによって1俵収穫するのに必要な窒素量が違ってきます。施肥の計算量を考えて下さい。

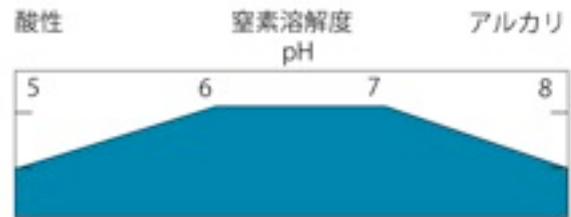
(基本の考え方)

1俵収穫に対して必要な窒素量の違いを見て、分解度を計算しながら下記をお読みください。現状の土壌で窒素の必要量を計算しなければ目的は果たせないのです。将来は20%窒素量を少なくしても13俵以上可能な設計を考えています。

★pH5.5以下なら1俵収穫するのに窒素量が1.5kg必要なのです。つまり13俵目標で窒素量19.5kgが必要。(注意) pHによって種子量も違い、蒔く日でも違います。

★pH5.8前後なら1俵収穫するのに窒素量が1.3kg必要です。つまり13俵目標で窒素量16.9kgが必要。(小麦の習性を知れば優しいことです。秋の気候で分ゲツ違い春の工夫がある。)

★pH6.1以上なら1俵収穫するのに1kg必要です。つまり13俵目標で窒素量13kgが必



増産は穂の長さの段数ではなく、小麦の1段のへや数が片側に7ヶ所開花7個咲く、片側3個か、5個か、5個を何段付けるか、小麦は開花時期が短いので瞬間的な栄養バランスが必要です。

★10月3日後の播種は4段の節から穂が出てきますので、長さの段数は1段短い。それほど心配なく1段に5個、4段以上を実らす。増収は根作りがもっとも重要。化学肥料はヨーロッパが60年先輩、先進国にグループ活動で早く追いつくことです。

要です。(ある程度春の追肥タイミングで可能。)

★連作の場合は、10~20%増量しなければ同じだけ収穫できない。つまり13俵目標で20%多く必要です。

- (1) 蒔いた日によって分ゲツが違ってきます。
- (2) 1本の種から3~4本の分ゲツが理想
- (3) 4本以上の分ゲツは穂が小さくなります。
- (4) pHによって分ゲツ本数が違ってきます。

pH	播種時期	種子量の目安
pH5.8	9月 20~23日	6kg
	9月 23~24日	7kg
	9月 25~27日	8kg
	9月 27~30日	10kg
pH5.3以下	9月 25日	15kg
pH5.5前後	9月 25日	11kg
pH5.8前後	9月 25日	8kg

※3号、4号で太く短い莖に、開花までに7号でお腹を減らさせる。増産は大きな根作り6号、肥料を多く開花までに吸収した窒素燃焼のテクニク7号。
小麦は作物の中で一番難しい作物です。

●詳細説明は（株）川田産業までお問い合わせください。
（電話） 0155-22-2345